



2025年が幕を開けJR東労組の旗を開いた。さあ、たたかひの幕開けだ。今年「新生JR東労組運動宣言」を掲げて5年目を迎える。組合員と家族の利益のためのJR東労組として2025年は未来を切り拓くためにたたかひを決意である。

昨年2024年は絶えぬ戦争、世界を憂容させる物価高、世界の年間平均気温が上昇し「地球沸騰化」と言われる中で自然災害は激甚化・頻発化し、将来への危機感を募らせる年であった。そして、日本の労働力不足は経済の再生や立ち直りがもはや不可能な領域にあるのではないかと危惧せざるを得ない。私たちの生活を圧迫する現在の物価高は、コロナ禍からの回復と戦争の影響によって、需要に供給が追いつかないことによりもたらされている。

元日の新聞各紙は戦後80年の節目を踏まえた論説や、米大統領選に返り咲いたトランプ氏に日本がどう対応するのか、またトランプ就任後の世界各国の分析にわたる内容がほとんどだった。一國主義とグローバリゼーションの対局はどちらが民主的かと投げかける記事があったが、自国第一主義もグローバリゼーションも、エネルギー資源の保有や軍事的優位性を持つ超大国や先進国による市場の獲得、分捕り合戦、金を動かすための自由競争としての民主主義と云っているに過ぎない。一國主義という政治的モメントは世界に広がり、国際協調の破綻が保護貿易とブロック経済へと誘導する。これが第二次世界大戦前夜の傾向だったという事実から、現在ウクライナや中東の局地戦に留まらず、一触即発の世界的緊張が高まっていると言えよう。

生活を圧迫する物価高は世界との関係において規定される。従って戦争はどこか遠い国の問題ではなく、私たちの生活と無関係ではないのである。私たちは会社と自分という日常の関係だけに意識を奪われ、国や会社に騙される世間知らずの労働者になってはいないか。社会との関係で自己を見る。戦争を他人事ではなく自分事として考えるべきだ。

2025年の幕開け！組合員と家族の利益のために労働組合らしく、労働者らしくたたかおう！

一方で、私たちは25春闘を全職場からの運動で要求を勝ちとらなくてはならない。春闘はすでに始まっており恒例の政労使会議も開催された。しかし、これまでの春闘で労働者の平均賃金が上昇しても実質賃金は低下しており、産業間格差、地域間格差、企業内格差はいずれも改善されていない。

18世紀の英国から出発した産業革命によって、当時の労働者の平均労働時間は一日あたり16時間であったという。平均で16時間ということはそれ以上の長時間労働を強いられた労働者が存在し、しかもさらに労働力の安価な女性や子どもまで働かせていたという。労働者を食事に寝る時間以外に死なない程度に働かせ、労働者の賃金を引き下げることを強制し、企業間競争にしのぎを削ったのだ。それに対して労働者は、賃上げや労働時間の短縮を会社に求め、弾圧されても労働組合を組織し、たたかってきた。

いま、政府と経団連は産業構造の転換のための労働組合の骨抜き化と労働諸法制の改悪を企んでいる。労働組合が職場の切実な要求と現実を訴えない限り、資本主義は約300年前の労働者のように賃金や生活水準を引き下げようと現代でも企てるのだ。

昨年の春闘では夏季手当を並列で交渉した。しかしその結果、ゴールデンウィークの好調さに基づく業績の上方修正が加味されなかった。しかも年末手当の回答は夏季手当の近似値で回答したことから、春闘と賞与を一括して回答する年間臨結としての地ならしを行ったと見るべきであろう。従って、春闘と夏季手当は切り離して、昨年の実績を既成事実化させないたたかひとして会社に迫ることが重要である。生産力が高まっても実質賃金が低下している事実を怒りをもって要求実現のために立ち上がろう。

労使共創協制の問題や、会社が新たに検討している人事・賃金制度の問題を職場から議論し、組織強化・拡大を実現しよう。組織された労働者の力によってのみ否定的な現実を変革することができる。2025年を労働組合らしく、労働者らしくたたかおう！

2025JR総連春闘を勝利するため、組織拡大を実現しよう！

「統一要求・統一闘争」を掲げた2025JR総連春闘スローガンが決定されました。詳細な要求内容は2月6日の定期中央委員会にて決定しますが、春闘勝利に向けてたたかひましょう！

2025年の物価は2.0〜2.5%程度の上昇と予測されていますが、JR東日本の定期昇給は賃金の約1.9%相当の上昇であり、定期昇給が係数4で実施されたとしても物価上昇の方が上回る状況となります。これ以上の生活の苦しさを回避するためにも、ベースアップ(ベア)の実現は必要不可欠です。

「賃金が生産力の高まりに比例していなさー！」

JR発定当時、社員一人あたりの売り上げは約1900万円、社員数は約8万3000人でしたが、2024年時点では一人あたりの売り上げは4300万円、社員数は4万4000人となりました。「融合と連携」等による組合員・社員の努力で生産性が高まった結果です。私たちの賃金は過去最高の動き度に対して抑制されており、職場の努力に報いない経営姿勢を突破する必要があります。

過度な競争を持ち込む格差に反対！一律定額ベアを求める！

24春闘では、ベアは「所定昇給額と同一の額14000円(平均10599円)」になり、職

組織拡大を実現しよう！

2025JR総連春闘を連帯してたたかおう！

賃に応じて26000円の格差がつかました。物価上昇に職責は関係ありません。このままでは社員間の妬みや競争を煽り、評価を上げるためにミスを隠蔽することも危惧されます。競争よりも協力が大切であり、過度な競争を持ち込む格差賃金は鉄道やバスの職場に必要ありません。

JR東労組として、全国の仲間と連帯して2025JR総連春闘をつくりあげます。春闘の三大要素は「世間相場」「会社の支払い能力」「労働組合の組織力」であり、各々の単力が連帯して相場を引き上げることが必要です。それが、バス東北本部、バス関東本部、ステーションサービス協議会の仲間の春闘にも連動します。

春闘と夏季手当の同時議論で弊害が発生！

2023年12月、会社から「合理性がある」「生活設計を立てやすくする」との理由で、新賃金(春闘)と夏季手当の同時議論が提案されました。JR東労組は、同時議論を原則とすることなく、その都度の労使合意のもと同時議論することを決めることを求めました。24春闘で同時議論を行った結果、夏季手当は2.7ヶ月の低額回答となりました。しかしその後業績が上方修正され、GW輸送もコロナ前を上回り好調でした。従来の交渉日程ならば夏季手当交渉で議論できたものであり、今回反映できなかったことは同時議論の大きな弊害です。さらに、夏・冬の支給月数の差が縮まる中、JR西日本のように年末手当も含めた年間の期末手当を同時議論したい意思もあるのではないのでしょうか。

そして、私たちができる最大の取組みが「労働組合の組織力」を高めること、つまり組織拡大を実現することです。未加入者や、低額相場形成の一翼を担ってしまっている社友会会員に対し、JR東労組の仲間として共にたたかひを訴えましょう！

「詳細は職場討議資料をご参照下さい。JR東労組HPの「25春闘」のタグから閲覧できます」

